

だれもが目指せる甲子園

玉川小学校 五年 末松 翔吾（すえまつ しょうご）

0対66。今年の夏の全国高校野球西東京大会、青鳥特別支援学校と都立東村山西高校の試合結果です。青鳥特別支援学校は、全国で初めて、特別支援学校の単独チームで全国高校野球の地方大会に出場しました。

このニュースを見た時、ぼくは、障がい（色んな表現があると思いますが、今回はこのように書きます。）のある人と、そうでない人が、平等に全力プレーで甲子園を目指せる、同じスタートに立って同じゴールに向かって一生懸命になれるっていいなと思いました。ぼくも少年野球チームに入っています。高校生になったら甲子園に出るという夢を持っています。それなのに、挑戦することすら否定されたら…最初から夢をあきらめなさいと言われたら…。障がいのある人には危ないからという理由で、野球をすることさえできなかった人もいるそうです。仲間と一緒に協力し合ったり、声をかけ合ったり、勝利を喜んだり、負けをくやしがつたり、そのような楽しさも野球にはあります。障がいがあっても、なくても、楽しい権利は平等にあります。20点以上取られたら、ぼくならあきらめてしまうかもしれません。でも、青鳥特別支援学校の選手たちは5回まで戦いぬきました。試合中みんなで声をかけ合って、アウトを一つ取る度に喜び合って、試合を楽しんでいたそうです。試合後の選手の笑顔はかがやいていました。ぼくは、その笑顔を見て、試合を全力でやりきるってすごいと思いました。

人権とは、生きる権利や自分の居場所があることだと思います。今の社会には、男女差別や障がいのある人への差別がまだ多くあります。男の人だから、女の人だからというイメージで判断するのは、もうやめるべきです。障がいのある人を仲間はずれにするのもいけません。障がいがあるからといって、できないと決めつけてしまうのもいけません。だれにでも夢を持ったり、挑戦したりする権利が平等にあります。居場所があるということは、安心して暮らすことができ、自分から楽しいと思えることが見つけられ、自由に楽しむことができるということだと思います。

青鳥特別支援学校の野球部は、人権を尊重した社会への大きな一歩です。将来、特別支援学校出身の人たちとぼくとで、プロ野球の世界で活躍できる日が来てほしいです。